

1. 内政

- ・14日、ヴォローニン共産党党首は、モルドバは連合協定署名によって欧州における反ロシア・バッファーになることを提案されている旨発言。
- ・14日、カルポフ副首相は、シュタンスキ沿ドニエストル「共和国副首相兼外相」と会談し、農地問題を協議。次回協議は5月を予定。
- ・15日、カンドゥ議会副議長は、モルドバ人はルーマニア語とロシア語をどちらも話し、宗教の別もなく、分離主義の前提条件はない旨発言。
- ・16日、沿ドニエストル「共和国最高会議」は、ロシア連邦国家院、ロシア大統領及び沿ドニエストル「大統領」に対し、同「共和国」を主権のある独立国家として承認するプロセスを進める要請を採択。右を受け、モルドバ政府は、「5+2」公式会合の参加者全てが沿ドニエストルをモルドバ領土とみなしている旨発表。

2. 外政

- ・14-15日、ティモフティ大統領は、ポーランドを訪問し、コモロフスキ・ポーランド大統領と会談。コモロフスキ大統領は、ポーランドの脱中央集権化の経験は、モルドバの役に立つだろう旨発言。
- ・17日、マケイン米上院議員率いる議員団が来訪。マケイン議員は、レアンカ首相と会談し、両国の団結を確認。
- ・17日、プーチン露大統領は、沿ドニエストルには多くのロシア系住民が居住し、自らの運命に関する意見を持っている。「5+2」枠内の協議を活性化するべきであり、最終的には住民達が自らの将来を決めるべき旨発言。
- ・17日、コルマン議会議長は、ナルイシュキン露国家院議長と会談し、自分は欧州統合と東方のパートナーとの協力関係発展の両方を支持している旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。(了)